

学校における実力主義の信念とジェンダー平等の認識

○三井祐菜・佐藤夏帆・中尾茉莉那・萩野珠菜・本田結衣・森永康子
(広島大学教育学部)

問題

学校での成功は、生徒の能力や努力に基づいており、生徒の所属する社会集団とは関係ないとする考えを学校実力主義の信念と呼ぶ。Batruch et al. (2022) は、この信念が社会における不平等を維持する態度と関連することを報告した。本研究では、ジェンダーを取り上げ Batruch et al. (2022) の追試を行う。仮説は、実力主義の信念の高さは、男女不平等の認識の低下や、学校における男女不平等を改善する取り組みへの支持の低下に関連するというものである。研究1では相関研究を行い、研究2では実力主義信念の高低を操作し仮説の検討を行った。参加者の性別による影響も考えられるため、その差異についても検討した。

研究1

方法

大学生 50 名 (女性 14 名, 年齢: $M = 18.8$, $SD = 1.5$) に対して、実力主義「高校ではやる気があれば何でも可能である」、制度的特権「高校の雰囲気は男子生徒が過ごしやすいものとなっている」、施策不支持「理系学部の大学入試において女子枠を設けることは、女子を優遇することになる」、女性集団不利益「女性は社会の犠牲になることが多かった」、男性集団特権「男性は、その性別のおかげで有利な立場にいる」の 5 つの尺度について尋ねる調査をオンライン上で行った。

結果

男女別に各変数の相関係数を算出した結果、男性参加者のうち、実力主義が高い人ほど男性集団特権をより高く認識しており、全体として、Batruch et al. (2022) の結果は再現できなかった。

研究2

方法

学生を除いた 20 歳以上の男女 185 名 (女性 89 名, 年齢: $M = 41.0$, $SD = 8.4$; クラウドソーシングで募集) に対して、オンラインで実験を実施した。日本の教育の現状についての刺激文を 2 種類

用意し、参加者を高実力主義条件 (以下, 高条件) と低実力主義条件 (以下, 低条件) に無作為に割り当てた。その後、実力主義、制度的特権、施策不支持、女性集団不利益、男性集団特権の 5 つの尺度への回答を求めた。

結果

各変数の記述統計を Table 1 に示した。実力主義について性別×条件の分散分析を行った結果、条件間に有意差が見られ、条件の操作は成功したといえる。また、有意傾向の交互作用が見られたため、高条件の女性の方が低条件の女性よりも日本の高校は実力主義であると回答していた ($p = .01$)。

他の従属変数について分析した結果、条件の主効果は女性集団不利益と男性集団特権に見られ、高条件は低条件より女性集団不利益や男性集団特権を低く認識していた。制度的特権と施策不支持において有意傾向の交互作用が得られたため、下位検定を行ったところ、制度的特権では高条件の女性が低条件の女性よりも制度的特権を低く認識していた ($p = .08$)。施策不支持では、高条件の男性は低条件の男性よりも女性の教育に対する優遇措置への支持が低くなっていた ($p = .06$)。

Table 1 条件別男女ごとの各尺度の平均値標準偏差と分散分析の結果 (研究2)

		低条件		高条件		主効果		交互作用	
		男性	女性	男性	女性	条件	性別	条件×性別	
実力主義	平均	2.86	2.74	2.89	3.04	F値	4.64	0.03	3.08
	(SD)	(0.62)	(0.55)	(0.52)	(0.42)	P値	0.03 *	0.86	0.08 *
制度的特権	平均	1.68	1.92	1.74	1.71	F値	1.16	1.90	3.07
	(SD)	(0.51)	(0.57)	(0.50)	(0.51)	P値	0.28	0.17	0.08 *
施策不支持	平均	2.66	2.63	3.03	2.63	F値	3.57	4.85	3.70
	(SD)	(0.78)	(0.60)	(0.66)	(0.60)	P値	0.06 *	0.03 *	0.06 *
女性不利益	平均	2.92	3.08	2.69	2.82	F値	6.62	2.28	0.03
	(SD)	(0.57)	(0.57)	(0.74)	(0.68)	P値	0.01 *	0.13	0.88
男性特権	平均	2.44	2.80	2.30	2.51	F値	5.02	8.59	0.61
	(SD)	(0.72)	(0.71)	(0.60)	(0.60)	P値	0.03 *	0.00 **	0.44

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

総合考察

研究1では、Batruch et al. (2022) の結果を再現できず、仮説は支持されなかったが、研究2で条件操作を行ったところ、実力主義の信念を強く持っている人は、教育や一般社会におけるジェンダー不平等を認識しにくいという仮説を部分的に支持する結果が得られた。これは、Batruch et al. (2022)の主張に沿ったものと言えよう。

(科研費 21K02978)